

夏休みの課題の紹介（一部抜粋）

道徳の教科書を読んで

1年「あなたはすごい力で生まれてきた」

2年「和樹の夏祭り」

3年「No. Charity but a Chance!」

岡中だより

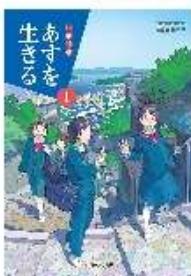
令和元年
10月 9日
第20号
(文責 花岡)

夏休みの道徳の課題にご協力いただき、ありがとうございました。その一部を紹介します。

あなたにとつて生きるとはなんだろう？

（1年生徒）

生まれる時も共同作業、成長する時も色々な直撃、間接的な助けがある。だから生きると嬉しいことなのだと思います。



・自分がきらいになったり、つらいこともあるけれど、奇跡が重なって僕は生まれてきた。生まれることができなかつた命もあるのだから、その奇跡を感じて毎日すごしていくことが、生きていくのにすむことなのだと思います。一人で生きているのはなく、みんなで生きているのだと思う。

・生まれる時も産まれたとき、自分が産まれたときの話を聞いたなら、早産で小さかったので、NICU（生まれたばかりの赤ちゃんに特化した専用の集中治療室）の先生やナースのみなさんにお世話をなり、たくさんの人たちに今まで思いました。

（1年保護者）

ともに生きる社会の実現

・自分も若い時は「子供を産み育てる」ことを簡単に考えていましたが、早産ののちに病気が発覚し、本当にたくさんの方々のおかげで、今こうして元気の中学校生活を送ることができて、感謝しかありません。何気ない普通の毎日を大事に生きて、充実した学生生活を送ってほしいです。

（2年生徒）

・隣の地域の夏祭りは、自分たちが祭りを支える側になり、参加していたにも関わらず、和樹は、中止になった祭りを人のせいにしていました。だからだと思う。地域の人たちは、その地域の伝統や歴史について知っていると思うので、地域の人と交流し、話しあうことが必要だと思う。

（2年生徒）

・隣がいのある人たちが、自信をもつて働く場所を、日本社会の厚い壁にぶつかってきました。最後まであきらめることがなく、がんばることができたり、夢は実現されるし、子どもを授かった時のことを思い出すことができました。授かったことで周りの皆が喜んでくれること、母親として少しでも成長していくことが、体感して見えることのできる時期でもあり、母にしてくれた準備をさせてくれることを感じ取れる期間でもありました。大切にしたい気持ちと大きく成長している姿の楽しみ、命を大切にしてほしい気持ち、いろいろと考えさせられることでもありました。

（3年生徒）

・隣がいをもつているからといって、一般の人たちはちがつた仕事をさせることはやさしさではなく、差別に近いものになるのではないかと考えました。だから中村医師もまで頑張ることを忘れないようにしようと思いました。隣がいをもつているからといって、一般の人たちはちがつた仕事をさせることはやさしさではなく、差別に近いものになるのではないかと考えました。だから中村医師も

（3年保護者）

・和樹の考える「地域の夏祭り」は、地域の大人たちの運営に依存したものであつたが、剛の地域の夏祭りは子どもたちも運営の担い手となり、住民が一体となって運営していた。和樹の心に、「俺らの祭り」という言葉がひつかかっていたのは、地域の夏祭りへの参加の仕方の違いを感じたからだと思った。地域の伝統を一部の大人たちが存続させていたる状態が続くと、いずれ抱い手の人たちが高齢化していく。和樹の心には、「俺らの祭りが廃れていく。それを防ぐためには、子どもたちの積極的な参加、それを促すためには、子どもたちと一緒に無料体験などを始めたかったではないかと思います。

